

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第2回）会議要録

- 1 日 時 平成30年8月29日（水）18時30分から20時35分まで
- 2 場 所 武蔵野市役所 111 会議室
- 3 出席委員 宇田川、大屋、熊谷、熊田、合原、田中、千種、中西、花俣、深田、
本多、矢島、蓬田
- 4 欠席委員 酒井、森安、綿貫 (敬称略)
- 5 事務局 渡部常務理事、森事務局長、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 1名
- 7 議 事
 - (1) 開 会
 - (2) 委員長挨拶

【委員長】 お忙しい中、またお足元の悪い中、ご出席いただきありがとうございます。
時間も限られていますので、できる限り定刻で終わらせたいと思います。あらかじめ資料を送付していますので、質問事項やご意見等を事前に把握していただき、スムーズな進行にご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

(3) 議事

①第1回策定委員会会議要録確認 資料1

【委員長】 お手元の要録案をご覧いただき、ご意見や訂正等があれば、修正したいと思います。いかがでしょうか。

※特に委員からの意見等はなかった。

②第3次地域福祉活動計画の振り返り 資料2

【委員長】 第3次地域福祉活動計画の進捗状況について話をしていきたいと思います。
全体で話をすると、なかなか皆さんのご意見を伺えないため、今回は4つのグループを作りました。各グループのご意見を取りまとめ、最後に発表していただく形にしたいと思います。

それでは、事務局より説明をお願いします。

※資料2に基づき事務局より説明を行った。特に委員からの質問等はなかった。

【委員長】 ありがとうございます。

各グループに主なテーマがありますので、そのテーマに沿って、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(グループワークを実施)

【委員長】 それでは、Aグループから発表をお願いします。

Aグループ テーマ：地域をささえる人づくり

【委員】 「人づくり」「関心を持ってもらう」「何が魅力で関心を持ってもらうか」というようなキーワードが出ました。武蔵野は比較的地域につながりたい人が多く、ルーテル学院大学のファシリテーター養成講座のようなものに参加する等、地域の活動をしたい人が比較的多いのではないかと。ただ、そういったきっかけはあっても、なかなか本格的に地域活動を始めるところまではつながっていないという話を聞きました。

情報発信については、例えばフェイスブックがあり、比較的真面目な情報を発信しているけれども、それでは関心がない人には引っかからないのではないかとという話もありました。多くの人たちに情報を発信した場合、関心がない人ももちろん多いかもしれませんが、その中に「ちょっとやってみようかな」とか、「かかわりたいな」と思う人もいるはずだから、多くの人に向けて情報を発信することは、やはり重要ではないかと。ですので、そのような「引き込める情報」をどのように発信するかが話題になりました。

社会福祉と聞いても、他人事のように感じている人も多いなかで、他人事を自分の事のように感じてもらうには難しい部分もあると思いますが、「社会福祉」とか「ボランティア」というような固い言葉ではなくて、「楽しい」「仲間をつくる」というような、柔らかいキーワードを発信しながら、多くの人を巻き込んでいくことが必要なのではないかという話になりました。

【委員長】 ありがとうございます。では、次にBグループをお願いします。

Bグループ テーマ：「人がつながる地域づくり」

【委員】 最初に居場所のことが大きなテーマになりました。居場所をつくる、増や

していくことは大事ですが、居場所があっても、そこで活動する人がいないケースがあるようです。人づくりからしっかりやらないと、せっかく居場所があっても活用できないため、人材確保に取り組むことが大事なのではないかという話がありました。

それから、居場所として空き家を活用してはどうかという話題から、空き家についての具体的な活用方法はまだ考えられていないという話も出ました。その他、コミセンをもっと居場所として活用すべきではないかというところから、コミセン側の理解も必要ではないかという話もありました。

また、人と人とのつながりという問題では、地域住民の人たちがつながる共通の大きなテーマとして、防災が挙げられました。そのようなテーマを持って、まず人と人のつながりをつくっていくということが大事ではないかという話もありました。まだまだ「我が事」というよりも他人事になっている意識のほうが強印象があり、防災のようなテーマから、人と人のつながりをつくるのが大事ではないかという話がありました。

あとは、武蔵野ならではの文化的な土壌を大事にすることが大切ではないかという話もありました。

【委員長】 どうもありがとうございました。続いてCグループお願いします。

Cグループ テーマ：「たすけあいのしくみづくり」

【副委員長】 大きく分けて3つの話が出ています。

まず、支え合いポイント制度ですが、制度そのものを否定するわけではないものの、実はうまく機能していないのではないかという話がありました。ただし、制度を全面的に否定するのではなく、うまく活用していきながら進めていかなければいけないと。機能していないと思われる理由として、例えば今無償で活動されているボランティア団体がある一方で、支え合いポイント制度のような有償の性質を持つ取り組みが入ることによって、バランスが崩れてしまうこととか、無償と有償が混在することで、分断が進んでしまう可能性もあるのではないかという話が出ました。

ボランティアセンターがある市民社協としては、これをどう考えるかが課題なのではないか…という話はグループ内では出ませんでしたけれども、これは

私個人の意見になります。

2つ目の地域福祉コーディネーターは、現状でも取り組みは進めているものの、しっかりとした制度として実施できているわけではないということの共有が行われました。コーディネーターがどういうものかわからないというご意見もありましたので、それをまず共有し、この取り組みを次の計画でどう位置づける必要があるのかと。第3次活動計画のような書き方はできないかもしれないけれども、実際には必要な取り組みであるため、改めて武蔵野市の中で、地域福祉コーディネーターというものを、どのように位置づけるかという議論が必要なのではないかという話が出ました。

最後に、たすけあいのしくみづくりについて、今地域の中で中核的に活動を担われている方は高齢世代の方が多いと思いますが、若い世代にも参加してもらうにはどうしたらよいのかという話になりました。ただ、そこで実際に活動してもらうよりも前に、まず武蔵野という地域を知ってもらうことが大事だと。武蔵野というのは一体どのような魅力があって、どのような地域の課題があるのかを知ってもらうことも大切だということです。

若い世代が活動を始めるきっかけとして、既存のような切り口ではなく、もっと斬新なきっかけが欲しいという話も出ました。例えば、何かわくわくする、楽しいテーマで人が集まるようなものが大事なのではないかと。

また、現在進められている居場所づくりも、今後も進めていったほうが良いという話が出つつ、居場所のような場所で、もっと気軽に相談ができると良いという話も出ました。相談機能を居場所に置くことによって、どこにも相談できないようなことでも、敷居が低くなるという話も出ました。

総じて、このたすけあいのしくみを考えたときに、そこにどれだけ関心を持って取り組んでもらえるかと、これはほかのグループと同じように、他人事ではなくて、「我が事」として捉えられるようなしくみとして、どう作りこむかが大事なのではないかという話が出ました。

【委員長】 ありがとうございます。続いてDグループ、お願いします。

Dグループ テーマ：「市民ニーズに応える市民社協の運営」

【事務局】 活動の基礎となる人材、物、お金をどう増やすかが話題になり、順を追って

話をしました。

まず、社協職員については、人数を増やそうと思っても人件費を確保することが現実的に難しいことや、働きやすさとか働きやすい職場をどう作るかという話になりました。楽しさとかやりがいを見出せる職場であれば、それが住民等に対する充実したアプローチにもつながるのではないかと。

また、市内には〇〇コーディネーターが多いという話から、コーディネーター一同士の仕事を相互に理解できるような取り組みや、職員が段階を追って学べるような育成プログラム等も作れたら良いねという話もありました。そのようななかで、できる限り時間をつくるためにも、誰のために何をするのかを具体的に検討し、既存事業の精査、見直しも同時に行う必要があるという話になりました。

やりがいや働きやすい職場については、例えば、社協の事務所に目安箱のようなものを置き、悪いことではなく、良かったことを書いて入れるようにしてはどうかという話も出ました。そうすることで、普段は気づきにくい良い部分にも、職員間でお互いに気づくことができるようになり、結果としてやりがいにつながるのではないかという意見もありました。

市民社協の社屋については、吉祥寺駅から徒歩近く、バス停も目の前にあり、立ち寄りやすい場所にある利便性をどう生かしていくかが検討課題だという話もありました。

第3次活動計画では、市民社協が実施する助成金についても触れられていますが、その財源となる募金が減少しているという課題があります。赤十字奉仕団の皆さんや、民生児童委員の皆さんを始めとした、大勢の方の募金活動に支えられていますが、募金の使い方を明確に説明できれば、災害時の義援金募集のように、集まりやすくなるのではないかと。もっと使い道をわかりやすくPRしたほうが良いというご意見もいただきました。

最後に、社協の認知度を上げるためにはどうすれば良いかという話では、社協が何をしている団体なのかをわかりやすく伝えるプロモーションビデオ等を作り、うまく活用してはどうかというご意見をいただきました。

【委員長】 ありがとうございます。

私もDグループで話していましたが、職場の環境は大事で、職員がきちんと

安定して働ける場所があつて、それがひいては社協を支えるのだと。だから、そこがきちんとしていないと、社協の運営においても、職員の入れ替わりが多い等の問題が生まれやすくなる。職場の環境づくりが大事だということをお話しました。

ここでグループワークは終わらせていただきます。ありがとうございました。

(4) その他

【委員長】 事務局から何かありますか。

※事務局より「市内で見かける地域社協・福祉の会って何？（研修会）」、「居場所づくりと聞いてやってみたいと思った方の交流会」のチラシを配布し、周知を行った。特に委員からの質問等はなかった。

(5) 次回の日程

【事務局】 次第にありますとおり、9月18日火曜日、19時開始となりますので、時間をお間違えないようにお願いします。場所は1回目の策定委員会を行いました8階の802会議室です。よろしくをお願いします。

【委員長】 ほかによろしいでしょうか。なければ、第2回の策定委員会は終わらせていただきます。大変すばらしい議論を行っていただき、本当に参考になりました。大変感謝いたします。以上です。